

令和7年12月17日

町民の皆様へ

草津町長 黒岩信忠

《第9回草津町くらし応援商品券事業（1人1万円）について》

- ① 国はお米券の配布事業を予定しておりますが、具体的情報は現段階では入っておりません。お米券配布事業（1人あたり3千円相当）は評判が好ましくなく、それならば使い勝手の良い「くらし応援商品券事業」に振り替える判断をいたしました。
- ② 未だ国からの予算が幾ら付くかはっきりしませんが、物価高の中いち早く町民の皆さんにお届けすることが何よりと考え、**第9回くらし応援商品券事業を実施いたします。**
- ③ なお、第8回くらし応援商品券事業と重なり勘違いが想定されますが、役場住民課より新たな申し込み書が12月中に各家庭に郵送されます。お間違いのないよう手続きをお取りください。

《日本の温泉百選、じゃらん人気温泉地ランキングについて》

- ① 観光経済新聞が主催する日本の温泉ランキングで23年連続1位になりました。旅行業界のプロが選ぶ温泉地として絶対的王者の地位におりますが、2位～11位は激しく競り合っています。
- ② 今年度、1位 草津温泉（前年1位）、2位 下呂温泉（前年3位）、3位 道後温泉（前年2位）、4位 別府温泉（前年4位）、5位 登別温泉（前年6位）となっております。
- ③ じゃらん人気温泉地ランキング（もう一度行ってみたい温泉地）では3年連続1位になりました。絶対王者である箱根温泉は15年連続1位を続けておりましたが、5年前に草津温泉が箱根温泉を抜き去りました。
- ④ 今年度、1位草津温泉：2462票（前年1位）、2位別府温泉：2232票（前年3位）、

3位箱根温泉 2131票（前年2位）となりました。

- ⑤ 前回の広報でお知らせ済みですが、令和7年1月5日、行政と議会で観光経済新聞、リクルートじゃらんnet、楽天本社にトップセールスへ行ってまいりました。
- ⑥ 各社とも進化を止めない草津温泉のまちづくりを高く評価していただいております。行政が提案して、議会が審議して議決する。これにより事業が進み絶大な効果をもたらしておりますが、**1番の効果は、町民の皆さまが一丸となり、同じ方向を向き、取り組んだからこそ今の順位と繁栄があるのです。**もし町民同士が足の引っ張り合いをしていれば、16年前の草津温泉に逆戻りしてしまうでしょう。歴史を振り返ればその答えが出てきます。

《小中学校の建て替について》

- ① 小中一貫校もしくは小中一貫施設校の建設に向け取り組みます。校舎のデザイン設計は以前からまちづくりと共に進めて来た北山孝二郎先生に委ねます（世界の安藤忠雄先生の実弟）。先ずイメージ図の依頼をしましたが、草津町立学校施設検討会の意見を聞きながら、場所の選定、規模等を決めていきたいと思います。
- ② 様々なまちづくり事業を進めてきましたが、これに合わせ、おしゃれで斬新な小中学校の建設を進めてまいりたいと思います。当然ですが生徒たちに親しまれる学校にすることは言うまでもありません。
- ③ 既に決まっていることは万代鉱源泉の熱利用で暖房をすること、夏季の余剰水道水（12°C）を利用した冷房システムを導入します。生徒、職員にとって快適な学校になります。
- ④ また要望の多い家族で楽しめる公園を作りたいと思います。町はいくつもの公園を管理しておりますが、要望に則した新たな公園の設置を進めたいと思います。場所の選定、規模については議会および関係者と協議してまいります。

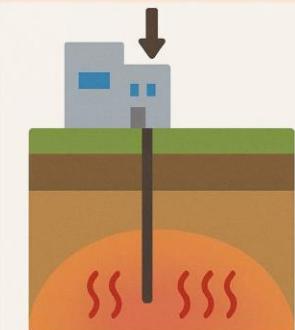
《温泉熱発電事業について》

- ① 群馬県と協調して、温泉熱発電を進めてまいります。莫大な投資をして復活させた万代鉱源泉を利用した温泉熱発電です。地熱発電と違い源泉への影響は全くありません。

地熱発電と温泉熱発電の違い

地熱発電

新たに掘削を行い、地中の熱を利用



温度や湧水量等温泉への影響が懸念

温泉熱発電

湧き出ている未利用の温泉の熱を利用



既に湧き出ている温泉への影響なし

発電ポテンシャルなど

●万代鉱源泉の総湧出量:

年間を通じて約9,000L/minで安定的。

このうち利用される温泉量、余剰量は季節的な需要により変動があります。

●利用可能な余剰温泉量:

既存設備に負荷をかけることなく、利用可能な余剰温泉量は3,000L/minまで確保可能。

●泉温:

万代鉱源泉の泉温は95°C。強雨時は源泉付近で雨水が混入するもその豊富な源泉量から第一配湯所までの温度低下は限定的。

●万代鉱源泉の発電ポテンシャル:

発電に利用可能な源泉量を3,000L/minと想定し、入口⇒出口温度差を30°C(95°C⇒65°C)と設定した場合、360kW(180kWの発電機×2台)となります。

360kWを年間に換算すると280万kWhとなり一般家庭なら約700戸分を賄える発電量となります。

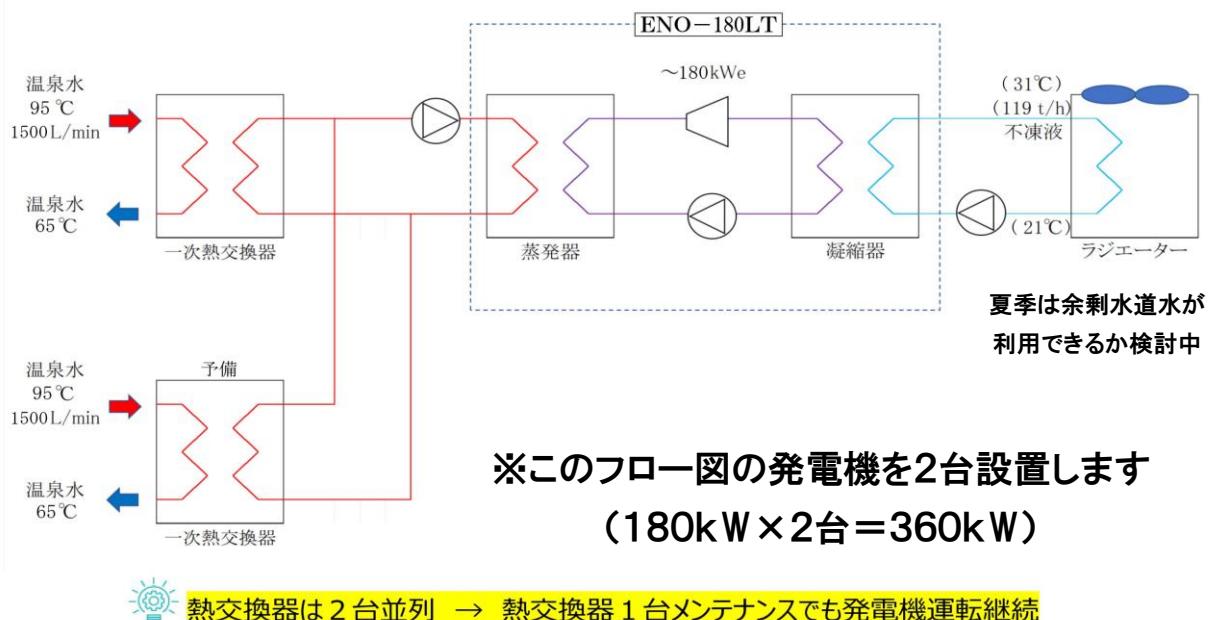
万代鉱源泉では、温泉熱で十分な発電量が得られ、採算性あり！

●稼働目標:

機器調達、冬季期間の工事の可否等で変動はあるが、令和9年度初頭の稼働を目指します。

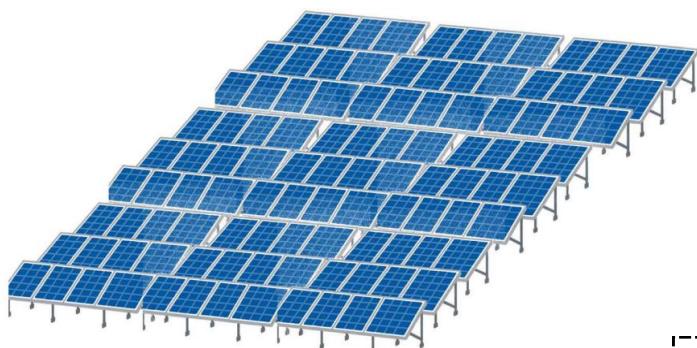
温泉熱発電フロー図

発電設備の検討 – ヒートバランス180kW機



太陽光発電と温泉熱発電との設備比較

太陽光 2160kW (パネル3300枚程度)



設備容量 : 2160kW
設備利用率 : 15%
年間発電量 : $2160\text{kW} \times 15\% \times 8640\text{h}/\text{年} = 280\text{万kWh}$
敷地面積 : 約14000 m² (1.4 ha)

温泉熱バイナリー 360kW (180kW × 2台)



設備利用率は太陽光発電の6倍

設備容量 : $180\text{kW} \times 2 = 360\text{kW}$
設備利用率 : 90%
年間発電量 : $360\text{kW} \times 90\% \times 8640\text{h}/\text{年} = 280\text{万kWh}$
敷地面積 : 約60 m² (0.0056 ha)

敷地面積は太陽光発電の230分の1